

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3650180023
法人名	医療法人 鈴木会
事業所名	グループホーム 蜂須賀荘
所在地	徳島県徳島市応神町古川字日ノ上32-1 (電話) 088-666-3868

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年7月26日

【情報提供票より】(平成20年 6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 11月 7日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 GH1 7人, GH2 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	水道、光熱費6,000円、布団リース代3,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	280 円	昼食 480 円
	夕食	480 円	おやつ 140 円
	または1日当たり		1,380円

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	16 名	男性	8 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.7 歳	最低	56 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊月病院
---------	------

徳島県 グループホーム蜂須賀荘 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の理念は全職員から募った原案を基に話し合い、利用者が馴染みの環境で安心した暮らしの継続ができることを支援するため、地域との関係性強化を謳った独自の理念がつけられ、日常のサービス場面にも活かされている。運営者は管理者、職員の資質向上に熱意をもち、定期的開催される法人内の代表者会議で年間の研修計画が立てられ、職員各自に応じた段階的な研修の機会が確保されている。管理者は毎日の申し送りとミーティングに重きをおき、理念の意識づけ、利用者の尊厳やプライバシーの保護等を職員と話し合い、全職員が介護方針を共有し実践できるよう取り組まれている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では改善課題はなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はサービス評価の意義や目的について全職員と話し合い、自己評価は各ユニットのリーダーが中心となって全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地区民生委員、町内会会長、利用者、家族、他事業所職員等の参加を得て2ヶ月毎に開催されている。討議内容は運営上の懸案事項や外部評価の結果、サービス現場での処遇困難事例等も話し合い、お互いに前向きな意見が出され処遇改善にも繋がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態は写真、「蜂須賀荘だより」を添えて定期的に家族に伝えられ、体調の急変時にはその対応や受診結果等を即時に報告するなど家族の安心が確保されている。また、家族の来訪時には意見や要望等を伝えてもらいやすいよう雰囲気づくりに配慮し、出された意見や要望は全職員がミーティングで共有するなどサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域の一員としての自覚をもち、近隣大学の教育実習や中学生の体験学習の受け入れ、また大学生による音楽療法等、ボランティアの来訪も多く、利用者の楽しみとなっている。地域の人たちとは買い物や散歩の行き帰りに気軽に挨拶を交わしたり、地区幼稚園の運動会や敬老会に参加するなど積極的な交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域でその人らしく、安心して暮らしが継続できるように全職員で考え、話し合い、事業所と地域の関係性を重視した独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員の名札には理念が書き込まれ、毎日の申し送り時に唱和するなど意識づけを行い、日々のサービス場面で具体的な実践に向けた取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として近隣の大学の教育実習や中学生の体験学習の受け入れ、大学生による音楽療法等、ボランティアの来訪もあるなど、利用者の楽しみとなっている。また、地域の人たちとは買い物、散歩の行き帰り時などに挨拶を交わしたり、地区幼稚園の運動会や敬老会へ参加するなど積極的な交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価を実施する意義や目的を職員と話し合い、自己評価は各ユニットのリーダーを中心に全員で行われ、サービスの質の向上に前向きな取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地区民生委員、町内会会長、利用者、利用者家族、他事業所職員等の参加を得て2ヶ月毎に開催されている。会議内容は事業所の取り組み状況や課題、外部評価の結果、処遇困難ケースについても話し合い、参加メンバーから有益な意見が出され、対応の改善が図られている。	○	運営推進会議の検討事項はミーティング等で報告されているが、不在職員のためにも議事録を閲覧可能な状態に配置し、確認の印・サイン等を徹底されるなど全職員が共有できるよう取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当者と日常的に交流し、事業所の思いや実状等を気軽に話し合い、担当者から情報や助言を得るなど、市町村と共に質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態は写真、「蜂須賀荘だより」を添え、定期的に家族に伝えている。また、利用者の特変時の対応や受診結果等は即時に報告がなされ、金銭出納の明細を毎月送付するなど一人ひとりの状態に合わせて、定期、随時に柔軟な対応がなされている。	○	金銭出納帳は日付、用途、金額が明確に記録され、毎月の報告もあるが家族が確認したことがわかる印かサインを徹底されるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、家族の来訪時には意見、要望等を伝えてもらいやすいような雰囲気づくりに配慮している。出された意見、要望等は職員間で共有し、ミーティングで話し合い、課題を検討するなど質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者や職員との馴染みの関係を重視し、職員の異動を最小限に抑える努力がなされている。退職等やむを得ない場合は利用者の特性、支援方法等の十分な引継ぎ、双方の相性等も考慮し、利用者のダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員の資質向上に熱意をもたれている。法人内では各部署の代表者による会議が定期的に行われ、年間の研修計画を立てるなど、職員各自に応じた段階的な研修の機会を確保し、研修内容の共有も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他法人の同業者と互いの運営推進会議に出席したり、相互評価を行うなど積極的な交流が図られ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスが受けられるよう本人の視点に立った柔軟な対応を心がけ、個々の趣味、関心ごと、嗜好等の把握と共に事業所の見学などで場の雰囲気に徐々に馴染めるよう支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を共に暮らす同士として、また先輩として敬い、一人ひとりの力量に応じた役割りのなかで喜怒哀楽を共感し、学び、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりのなかで、声かけや対応時のちょっとした表情の変化や反応によって利用者の希望、意向の把握に努められ、意思の疎通が困難な方には家族、関係者から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から出された要望や望む暮らしを踏まえたうえで、日々のミーティングやカンファレンス等で全職員による話し合いが行われ、利用者の豊かな生活を重視した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しとともに毎日チェックするケア実践記録表を参考に月末に評価し、再検討するなど実状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は医療連携体制、短期入居生活介護等の指定を受けられ、看護職員による利用者の日常的な健康管理や自宅で介護が困難となった認知症の方に対する相談、短期受け入れなど多機能性を活かした支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、利用者のかかりつけ医による医療が受けられるよう支援し、本人、家族と話し合い、状況に応じて受診等の対応も柔軟に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応指針についての話し合いが行われ、利用者、家族、かかりつけ医、職員等関係者全員で方針を共有し、家族の同意書(記名・捺印)も得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の新規採用時やミーティングの際に利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底が図られ、職員の接し方や言葉かけは穏やかである。また、運営規程、契約書等にも秘密保持、個人情報の取り扱いが明記され、出入りの業者とも誓約書を交わす配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は事業所の日課や行事を優先するのではなく、利用者のその日の体調やどのように過ごしたいかを考慮し、一人ひとりのペースや希望にそって支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、調理、盛り付けや片付けなどを一緒に行い、利用者と職員は同じテーブルを囲み和やかな食事時間を共有されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴習慣を把握し、入浴を嫌がる利用者にはタイミングを見計らって声かけするなど、本人の希望にそった支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食材の買出しや食事の準備、後片付けの他にも法人内で行われる納涼祭の団扇作り、バザーに出品するアクリル製の手編み食器洗い等を職員と共に制作するなど、個々の持てる力や得意なことが活かされた気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり菜園での草取り、野菜の収穫等気軽に戸外に出かけられるよう支援し、利用者の希望で自宅の見守り、墓参り等も柔軟に対応されている。また、花見等季節ごとの外出は利用者の大きな楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と全職員は事業所周辺の交通事情を考慮し、利用者の安全の確保と自由な生活を支援するため、ミーティングで繰り返し話し合い、日中は鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年4回開催され、警察署、消防署、職員が協働して取り組み、連絡網も整備されていた。熱心に取り組む訓練現場の写真と共に記録も残されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの一日の食事、水分摂取量を記録し、全職員が共有している。また、個々の咀嚼機能に応じて、すりつぶし、きざみ、一口大と形態にも配慮されている。栄養バランスは母体法人の管理栄養士によってチェックされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりと採光がよく明るい。壁面には利用者と職員が力を合わせ、季節の花や蝶をモチーフにした大小様々な作品(ストロー状にした色紙を立体に組み合わせた貼り絵)が飾られている。配置よくおかれたソファや椅子では利用者が思い思いにくつろがれるなど、家庭的な生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の丹精込めた作品や家族、孫、ひ孫の写真が飾られ、箆笥の上にはお気に入りの小物等を置くなど、馴染みのものに囲まれ、落ちついて居心地よく過ごせる工夫がなされている。		